

平成24年度香取市小中学校「標準学力調査」結果概要

香取市教育委員会

【小学校 第5学年】

〔調査結果〕

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	目標値との差	全国平均
国語	65.5	62.5	▼3.0	63.5
社会	67.4	71.8	4.4	70.3
算数	69.0	71.5	2.5	72.2
理科	72.3	78.4	6.1	74.6

〔全体的な傾向〕

社会と理科は、市平均正答率が目標値と全国平均をともに上回ったが、国語は、ともに下回った。全体として、学習の実現状況はおおむね良好である。

〔国語科における主な課題（○）及び改善例（・）〕

- 【話し合いの内容を聞き取る】話し合いの場面で、話し方の工夫を考えて聞いたり、司会者の役割を理解して適切な言葉づかいで話したりすることに課題が見られた。
 - ・話し合いの場面では、内容を聞き取るだけでなく、それぞれの話し手がどのような話し方をしているのかを意識して聞くようにさせることが大切である。また、司会者の役割として、目的に沿った話し合いになっているかどうかを、常に確認しながら進めていくことが必要である。日頃から出された意見をまとめたり、テーマから外れた意見を整理したりする練習を積み重ねていきたい。

- 【言葉の学習】言葉の学習では、連用修飾語の理解や、同訓異字の使い分けに課題が見られた。
 - ・どの言葉がどの言葉を詳しくしているのかという文の構造について理解することは、文章を書く時や、正しく内容を読み取る時にも必要である。視覚的にわかる言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構造を理解させることが必要である。また、同音異字や同訓異字などの間違いやすい漢字については、漢字そのものの意味を押さえた上で、様々な書く活動の中で積極的に使う習慣をつけることが大切である。

- 【物語の内ようを読み取る】物語の読み取りでは、場面の情景を読み取ったり、場面の描写を捉えて表現の特徴をつかんだりすることに課題が見られた。

- ・ 物語で用いられている比喻や擬音語、擬態語などの表現は、場面の様子をよりわかりやすく、生き生きと伝えるのに役立っている。物語を読む際には、作者の表現の仕方に着目させ、それがどのような効果をもつのか、児童に話し合わせる活動を取り入れていきたい。

○【資料と話し合いの内容を読み取る】資料と話し合いの内容の読み取りでは、資料から必要な情報を取り出したり、話し合いの内容を正確に読み取ったりすることに課題が見られた。

- ・ 資料をもとに話し合いを行ったり、話し合いをもとに今後の取り組みについて考えたりすることは、国語科だけでなく他教科の学習の際にも必要になる。日頃から、様々な情報の中から必要な情報を選び出したり、情報を活用したりする力を養っていききたい。

〔社会科における主な課題（○）及び改善例（・）〕

○【世界の中の国土】日本の最南端の島を理解することに課題が見られた。

- ・ 日本の領域は、たびたびニュースでも取り上げられる話題である。日本の領域の範囲・名称・位置や、領域と経済水域の関連性などについては、地図帳・ワークシート・新聞記事などの資料を活用し、様々な視点から考察させて理解を深めることが大切である。

○【日本の国土と人々の暮らし】日本の川の特徴を理解することに課題が見られた。

- ・ 日本の国土の地形や気候などについては、各地域の特色が生活や産業と結びついていることを考えさせたい。そのためには、資料をもとに調べた内容をグループごとに討論させ、それぞれの地域の特色やそこに生きる人々の知恵や工夫などをお互いに知り、理解させる指導が重要である。

○【日本の水産業】日本の漁業別生産量の変化のグラフを読み取ることに課題が見られた。

- ・ 漁業の種類については、ビデオやDVDなどの映像資料を使い、それぞれの漁業の様子を視覚的に捉えさせることが大切である。また、グラフの読み取りについては、単に変化の様子を読み取らせるだけではなく、なぜそのように変化したのかという発問を取り入れ、日本の漁業が抱える問題について様々な面から考察させる必要がある。

〔算数科における主な課題（○）及び改善例（・）〕

○【整数のなかま分け】2つの数の最大公約数を求めることに課題が見られた。

- ・ 最大公約数とは、それぞれの数の約数を求め、その中で共通する約数のうち最も大きな数のことである。はじめはこのように丁寧な手順を踏まえて求めることが大切であるが、練習を積み重ね、2つの数を見てすぐに答えられるように習熟させたい。

○【小数のかけ算・わり算】小数の除法における除数と商の大小関係について理解したり、図を見て小数の除法の文章問題に合った式を選んだりすることに課題が見られた。

- ・ 小数の計算においては、計算技能だけではなく、計算の意味を理解させることが重要である。特に小数の乗除の計算においては、数直線上に数量の関係を表現し、説明させるなどの活動を通して、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係を捉えさせることが大切である。

○【図形の角】2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることに課題が見られた。

- ・ 三角形の内角の和である 180° から与えられた2角を引いて、残りの内角を求め、そこから外角を求める問題である。誤答の多くは、外角ではなく、残りの内角の角度を答えてしまったものである。角度を求める際には、計算で求めたのはどの角度なのか、図形に書き込んで確かめる習慣をつけることが大切である。

[理科における主な課題（○）及び改善例（・）]

○【顕微鏡の使い方】顕微鏡の倍率を求めることに課題が見られた。

- ・ 観察倍率は、接眼レンズの倍率と対物レンズの倍率をかけ合わせた数になる。顕微鏡を使う際には、単に操作方法を身につけさせるだけでなく、何倍で見ているのかという視点も持たせるようにしたい。

○【流れる水のはたらき】山の中を流れる川の様子を理解することに課題が見られた。

- ・ 川の上流では川はばが狭く、流れは急だが、下流では川はばが広く、流れは緩やかになる。実際に地面を流れる水や川の様子を観察させ、流れる水の速さや量によるはたらきの違いを調べ、流れる水のはたらきと土地の変化の関係を理解させることが大切である。